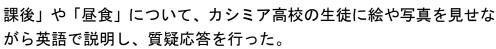
1人1台端末の活用による実践事例

学 校 名	岡山県立倉敷南高等学校		
実践者等	景山 晴光	実践日	令和3年6月18日
実践場面	英語表現【		
(教科・科目、学校行事等)			
対象生徒 (学年等)	1 年次		
単 元 名	Lesson 2 さまざまな「時」を表現する〈時制〉		
(教科・科目の場合のみ)			
使用したアプリ等	Meet、Google カレンダー		
	海外姉妹校とのオンライン交流:時制を意識した英語原稿を		
実践の概要(ねらい等)	作成し、英語で日常生活について説明する。姉妹校生の日本		
	語学習の補助となる日本語	での質問等	を行う。

実践の内容

1 年次生 1 クラス、40 人が 1 人 1 台端末 (Chromebook) を活用し、カシミア高校 (ニュージーランド) で日本語を学習する生徒 20 人と Meet で繋がった。事前にそれぞれの学習単元 (日本語学習生は「~した後で」「~する前に」、本校生徒は「時制」)を確認し、それらを活用した会話ができるように準備を行った。

今回の交流は本校生徒4人とカシミア高校生 2人の6人の小グループで活動した。生徒は「放



オンラインの準備として、本校の教師が Google カレンダー上で Meet の URL を 10 個用意し、本校生徒とカシミア高校生に事前に知らせていたが、当日はその Meet にカシミア高校生が入れず、接続に時間がかかった。(原因は Meet の URL を作り出した人がホストとなり、その人の許可がないと Meet に入れないということであった。本校教



師が10個のMeet に1つずつ入り、カシミア高校生に順次許可を出すことで解決した。) 次回からは本校生徒のグループリーダーがMeet のURLを取得し、ホストとなることで こうした手間は省けると考えている。

画面越しではあるが、自分の目の前に姉妹校の生徒がおり、生徒自身が画面の相手を 意識して、コミュニケーションをとろうとしている場面が多くみられた。直接やりとり できたことが自信や喜びとなり、終了直後に、次回のオンライン交流を切望する生徒が いた。今後1年間をかけて1年次の全クラスで同様の取り組みを実施予定である。

参考となるHP等